

ミニラグビー競技規則(平成27年改定版)要約版

佐倉市ラグビースクール・レフリー部会

2015/06/01 初版

要約版とは：条文を簡単に記述し直し、文字量を極力少なくすることに心掛けて整理したもので完全なものではない。
 厳密な判断は必ず原文を確認すること。

U-12ミニラグビーの競技規則は、ワールドラグビー(WR) (IRB)が定める競技規則に準拠する。
 また、高専・高校以下の特別競技規則、ジュニア・ラグビーの競技規則に該当する条項に関してはその趣旨を準拠する。
 その中で独自の競技規則を、本U-12ミニラグビー競技規則において規定する。
 文中、斜体文字下線部は、千葉県ローカルルール。

	低学年(1・2年生)・ <i>未就学児</i>	中学年(3・4年生)	高学年(5・6年生)
試合前 (1~5条)			
グラウンド	40m×28m以内 インゴール3m以内	60m×35m以内 インゴール5m以内	60m×40m以内 インゴール5m以内
ボール	3号ボール	3号 または 4号ボール	4号ボール
人数 (最大人数)	5人 フォワード 1人 ハーフバック 1人 バックス 3人	7人 フォワード 3人 ハーフバック 1人 バックス 3人	9人 フォワード 3人 ハーフバック 1人 バックス 5人
交代/入れ替え	コーチおよびレフリーは、登録されたプレーヤーを全員出場させる様配慮しなければならない		
プレーヤーの負傷	レフリーまたは競技責任者は、プレーヤーが負傷した場合、安全の確保を最優先し、直ちに応急救置、医師の治療を受けるよう指導する		
服装	a)試合中ヘッドギヤ着用(義務) c)シューズは一体成型ゴム底で鋭い形状や隆起部分がないもの(義務) スタッドの取り替え式不可(禁止) d)肩当ての着用不可(禁止)		左記(a),(c),(d)及び b)マウスガード装着が望ましい(推奨) ◀専門医に相談することを勧める。プレーヤー・保護者の判断に委ねる▶
試合時間 (日最大時間他)	10分ハーフ以内 (試合延長禁止《U-15準拠》) 最大 40分/日	15分ハーフ以内 (試合延長禁止《U-15準拠》) 最大 50分/日	20分ハーフ以内 (試合延長禁止《U-15準拠》) 最大 60分/日

得点	トライ5点 (コンバージョンキックは適用しない)	トライ5点 (コンバージョン適用時は 2点)
不正なプレー (危険なプレー) (不行跡)	a)相手をバインドせずに振り回す b)チャージする。突き倒す。タッチラインの外に突き出す c)フェンドオフ(腕を横に振り、払い除けるプレー) d)モール・ラックを崩す e)頭部を相手に打ち付けるような姿勢で突進する f)安全が確保できないような体勢でボールを拾う g)相手に怪我をさせるような行為	h)地上にあるイーブンボールを相手陣に強く蹴り込む行為 ※(a)~(h)は、実際に起きた場合だけでなく、その危険性が予見されればファウルプレー。アドバンテージを適用することなく速やかに試合を停止する ※判定に対する異議、相手の反則のアピール、相手への礼を失した言動等、スポーツマンシップを損なう行為は厳禁である
不正なプレー (準拠する規則)	全ての局面(ボールの争奪、タックル、ボールを確保する行為、ラックの形成前からラック・モール形成時を含めた全てのプレー)において故意、あるいは継続的に顔を下に向け、肩や腰よりも頭を低く(ローヘッド)した状態でプレーをする(またはプレーし続ける)ことはできない。PK 《U-15準拠》 次のプレーを行ってはならない。PK 《U-19準拠》 (t)頭突き、体当たりおよび頭の下がったタックル。 (u)ボールを持っているプレーヤーが故意に肘または膝を前に出して相手にあたること。 (v)全ての局面において頭を肩や腰より低く(ローヘッド)するプレー。	
不正なプレー [コーチを対象]	右記(a),(c)及び b)試合中1名のコーチがグラウンドに入ることが許される。自軍の最後尾のプレーヤーより後方で、円滑なゲームの進行の為、助言を行える	a)コーチは定められた区域内に位置する。・指導的な指示、助言を行える。・ただし、人格を尊重した言葉で指導を行うこと。・レフリーの判定に異議を唱えてはならない。・上記のような言動が見られた場合、試合を停止しコーチに注意をする、以後改善されない場合退場させることができる c)コーチの不行跡による試合再開は、プレーの停止がしたときにボールを保持していた側のスクラム。・コーチに注意以上の処分を与えた場合、試合終了後速やかに主催者に報告する

試合中 フィールドオブプレーについて (13条)			
タップキック	a) ボールを地面に置き、手を使わず足だけでボールに明確に触れること b) すべてのペナルティにおいて、相手側はタップキックによってプレーを再開する 【オフサイドライン】その際、反則地点(または低学年のキックオフ・ドロップアウトの地点)から【5m】後方		
キックオフ	ハーフライン中央で、タップキックからのパス オフサイドライン解消→パスを後ろのプレーヤーがキャッチ	ハーフウェイライン中央でキック キックの方法は得点後のキックオフに準ずる	ハーフウェイライン中央でキック キックの方法はドロップキック《WR準拠》
得点後のキックオフ	得点されたチームが ハーフウェイライン中央で、 タップキックからのパス	得点したチームがハーフウェイライン中央、 またはその後方よりドロップキック あるいはパントキック、プレースキック	得点したチームが ハーフウェイライン中央、またはその後方よりキック キックの方法はドロップキック《WR準拠》
キックオフ時の反則	パスされる前に攻撃側のプレーヤーが後方より勢いをつけて走り込み、フラットなパスを受けて突進を試みるプレーはキャバリエリー・チャージに相当しペナルティ	キックオフは5mラインに達しなければならない 再開はハーフウェイライン上中央で相手ボールスクラム	
ドロップアウト	5mライン中央でタップキックからのパス キックオフに準ずる	10mライン上またはその後方より行う ※キックの方法については記載なし・キックオフに準ずる	
フライキック	プレー開始及び再開のタップキック以外のキックは全て反則	フライキックとは【戦術的、戦術的に意図のない、ボールを手で保持した状況以外のキック】をいい反則。ペナルティ。しかし、ドリブルやトラップはフライキックと区別する(フライキックではない) 削除	
ダイレクトタッチ	再開は反則の地点で相手ボールスクラム	10mライン内からのみ許される 反則があった場合の再開はキックした地点で相手ボールスクラム	
ボールを手で保持した状況から以外のキック		ボールを手で保持する状況以外のキック(地上のボールを蹴るようなキック)は反則 再開は反則の地点で相手ボールスクラム	2013/05/24 ← 通達により削除
危険なキックプレー	地上にあるボールを互いのプレーヤーが走り寄り、相手陣に強く蹴り込むキックなどは危険である。ペナルティ 削除、不正なプレー(h)へ		

試合中 フィールドオブプレーについて (15条)	
タックル (準拠する規則)	(h)タックルされたプレーヤー、あるいは地面に倒れたプレーヤーが、身体と地面の間にボールを確保し足の間からボールを後方に押し出すプレー(「スクイズボール」)をしてはならない。 PK 《U-19準拠》

試合中 試合の再開 タッチとラインアウト (19条)

クイックスローイン		認めない	
ラインアウト形成	ラインアウトは行わない タッチの地点(タッチラインの外)より投入側がパスアウト	<ul style="list-style-type: none"> ・ジャンパーに対するサポーター禁止 ・b)ゴールラインから5m以内ではラインアウトは行わない ・c)ラインアウトに並ぶプレーヤーは2人/チーム。3mラインと8ラインの間に立つ ・d)ボール投入プレーヤーの相手はラインアウト近く、タッチラインと3mラインの間に立つ ・e)双方のプレーヤーの列の間には明確な空間(1m)がなくてはならない ・g)ボールが8mを超えて投げ入れられた場合、再投入 	
オフサイドライン	相手側はタッチの地点より3m後方	ラインアウトに参加しないプレーヤーはラインオブタッチから5m後方	
コンテスト		競い合わない(ノンコンテスト) ただし、投入側はジャンプしてボールを取る	競い合う(コンテスト)
ラインアウトの終了	オフサイドラインの解消は投入側がパスアウトした時 ※競技規則に明文化されていないことからプレーが開始された時点とする	ハーフバックがボールをパスした時点 ※パスしなかった場合は、もう一度やり直す	<ul style="list-style-type: none"> a)ボールキャリアがラインアウトから離れたとき b)ボールまたはボールキャリアが3mラインまたは8mラインを越えたとき c)ラインアウトでモール・ラックとなりラインオブタッチを越えて移動したとき d)ラインアウトから自陣方向にパス・キック・タックルしたボールにハーフバック役が触れたとき ※またはボールが地面に落ちたとき
ボールを取ったプレーヤー		ハーフバックに必ずパスする	パス、キック、ランのいずれも可《WR準拠》

試合中 試合の再開 スクラム (20条)

人数	1人	3人	
バインド		フッカーは両プロップの腕の上からその身体に腕をまわしてわきの高さ、またはその下をしっかりとつかむ (フッカーのオーバーバインド。肩口は脇の高さと認めず)プロップも同様にフッカーをつかむ	
組み合わせ	<ul style="list-style-type: none"> ・左右の足の位置をフラット(前後しない)にして、相手の上腕に軽く触れ、その後穏やかに組み合わせ合う ・左手は相手の右腕の内側、右腕は相手の左腕の外側になるようにして、相手ジャージーの背中または脇をつかむ ・習熟度に応じて、頭を組み入れず、お互いの上腕をつかみ合うハンドスクラムを可とする 	<ul style="list-style-type: none"> ・【ルック】相対する相手と目を見つめさせる ・フロントローは左右の足の位置をフラット(前後しない)にする 1.【クラウチ】のコールで腰を落とし組み合わせ準備の姿勢を取らせ確認する 2.【タッチ】のコールで相手の上腕に軽く触れさせる 3.【ホールド】のコールで相手をつかんだまま静止状態を維持させる 4.【エンゲージ】のコールで後穏やかに組み合わせ合う ・左プロップは、左手を相手の右腕の内側に、右プロップは、右手を相手の左腕の外側になるようにして、相手のジャージーの背中または脇をつかむ 	
姿勢	・プレーヤーは頭と肩が腰より低くならないようにまっすぐ組む	・スクラムが終了するまでバインドしていなければならない 「ノンコンテストスクラム」ではあるが、お互いの体重を支え合うように組む	
ボールの投入	・ボール投入は行わず、あらかじめ味方プレーヤーの右足元(つま先の前)にボールを保持する ・そのボールを(中学年の場合はフッカーが)右足の裏で後方に押し出すことでプレー再開	<ul style="list-style-type: none"> ・ノンコンテストスクラム、投入側が必ずボールを獲得するが、スクラムの中央に、まっすぐボールを投入する ・投入側が誤って相手側にボールを蹴ってしまった場合は、そのままプレーを続ける ・フッカーは、故意にボールを相手側に蹴り出したり、自チームオフサイドラインまでボールを掻いてはならない 	
オフサイドライン	防御側: (1)バックスのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足から3m後方 (2)ハーフバックのオフサイドラインは、スクラムを組んでいる味方プレーヤーの一番後方の足を通る線 攻撃側: 味方スクラムの最後方の足を通る線 ※競技規則に明文化されていないが、こう解釈する	(1)バックス(ハーフバックを除く)のオフサイドラインは、スクラムの味方プレーヤーの一番後方の足から3m後方(※攻撃・防御側双方) (2)防御側のハーフバックのオフサイドラインは、スクラムの味方プレーヤーの一番後方の足を通る線 ・ただし、スクラムから1m以上離れるプレーヤーはバックスと見なされ、上記『(1)』が適用される ・一旦、『(1)』に下がったときはスクラムが解消されるまで、そのオフサイドラインを超えることはできない 【例外】 ボールを獲得したら『(1)』に下がったハーフバックはオフサイドラインを超えてプレーができる	
スクラムの終了 オフサイドライン解消	ハーフバックのパスを、バックスのプレーヤーがパスキャッチした時点	ハーフバックがボールをパスした時点	<ul style="list-style-type: none"> ・ハーフバックがボールを触った時点 ・スクラムに投入されたボールが、バックスのオフサイドラインに偶然達した場合
ハーフバック	パスのみ ※競技規則に明文化されていないが上欄に因る ※パスしなかった場合は、もう一度やり直す	<ul style="list-style-type: none"> ・パス、キック、ランいずれも可《WR準拠》 ・オフサイドラインの【例外】を除きボールを扱う最初のプレーヤーでなければならない ・あたかもボールに触れたようなそぶりやボールに触れずに時間を空費してはならない 	
キャバルリーチャージ	スクラムで、防御側のスクラムオフサイドラインがスクラムより3m下がっていることをいいことに、スクラムからボールが出る前に攻撃側のプレーヤーが後方より勢いをつけて走り込み、ハーフバックからフラットなパスを受けて突進を試みるプレーは、「キャバルリー・チャージ」に相当すペナルティ	<ul style="list-style-type: none"> ・高学年ではスクラムからの「キャバルリー・チャージ」に相当するプレーは起こりえない ・攻撃側も、スクラムから3mのオフサイドラインがあるから、これはオフサイドの反則に相当 	

試合中 試合の再開 ペナルティキックおよびフリーキック (21条)

マークの位置	(a)すべてのペナルティにおいて、相手側が反則地点からタックキックによってプレーを再開【オフサイドライン】その際、相手側は反則地点【5m】後方 (b)反則地点がゴールラインから5m以内の場合は、マークはタッチラインに平行にゴールラインから5mの地点 (c)フリーキックも同様		
オフサイドライン解消	タックキックした時点 《WR準拠》		
タックキックしたプレーヤー	ボールを持って パス、ラン《WR準拠》 (キック不可)	ボールを持って パス、キック、ランのいずれも可《WR準拠》	